

# 中 北 海 道

## 現代俳句協会

### 会 報

93号

令和3年  
12月7日発行

書棚から大型歳時記を引っ張り出すのも面倒でいつも使っている「ザ・俳句歳時記」や「山本健吉基本季語五〇〇選」にれ叢書北の歳時記「現代俳句歳時記」を順に

「季語」は何処まで

許されるのか？



鴻風俳句教室主宰

梶

鴻 風

中国で一人生活する寂しさに負け、立ち上げた「鴻風俳句教室」も細ぼそながら今もなお続いていく。ある朝、小樽在住の若い会員から

猫パンチ拝み太郎の悲劇あり

と投句されてきた。この句の季語がわからない。そこで、作者に「季語はなんでしようか」とメールを入れると「拝み太郎」でカマキリのことと返信が来た。パソコンの検索歳時記で見たらこの季語が出てきたという。この季語を知らないこと事態が指導者としては失格なのだろうかこれまでに聞いたことがない。

見たが出てこない。古い歳時記ならあるかもしれないと思い「曲亭馬琴編増補俳諧歳時記葉草」を開くと「蠶螂」に「かまきり」とルビがついており、「いぼじり・鎌切」さらに「いの部みるべし」とあり、「蠶螂」に「いぼむしり」とルビが付いており、長い解説が付いている。江戸時代には「かまきり」よりは「いぼむしり」の方が一般的であったこともわかった。

会員では無い方が「拝み太郎」は九州長崎地方のことばであることを知らせてくれた。また同じ九州でも鹿児島地方では「おんがめ」というと俳友が知らせてくれた。四国では「かまきり」。北海道ではあの逆三角形の貌の「かまきり」はいるのだろうか。いまだ見たことは無いのだが。

# 中北海道現代俳句協会

## 「令和三年度俳句研究交流句会」を終えて

組織活動部長 原 田 昌 克

七月中旬案内発送、八月十日投句締切。そして九月下旬結果および講評発送をもって今回も無事紙上句会を終えることができました。五十四名百八句もの秀句佳句をお寄せいただきありがとうございます。ありがとうございました。

残念なことに、開催予定日目前にして蔓延防止重点措置、さらに緊急事態宣言と続き今年度も会場での開催はできませんでした。しかし昨年度に続き紙上句会として開催できたことはコロナ禍の中ささやかな幸せだったと思います。また、前回も紙上句会での開催であったことです。ひな型ができ上っていたことも幸いでした。お陰様で順調に作業が進み、思ったよりも早く結果をお届けすることができました。

参加者にお届けした作品集の冒頭会長の言葉にありました「今は耐えましょう。そして俳句の力を蓄えましょう。」まさにそれを実践するための紙上俳句研究交流句会であったと信じています。

●は特選の数  
順位

### 令和三年度 俳句研究交流句会作品

- あをあをとプールからこぼしてゐたり安田 中彦
- 4 蝶になる痛み注射を打ってから 鹿岡真知子  
物置の隅に梅酒の琥珀かな 遠藤 静江
- 12 たたみたる日傘に時間残される 石川美智子
- 15 いい人に少しつかれて夏の蝶 今堀 冷子
- 25 金魚掬ひ見てゐるだけの男の子 林 冬美  
夏の星旅立ちの稚魚見送りぬ 中山ヒロ子  
抗体の身に付くまでと夏ごもり 上田すみ子  
うすものに心の炎しづめけり 佐藤 和則  
空を飛ぶかたちとのえ夏帽子 渡辺のり子  
万緑の山を背開きジャンプ台 関根 礼子  
秋風やわれを忘れし姉ひとり 檜垣 桂子
- 5 スーパームーンどこかで海月裏返る 金子真理子
- 10 峡一つ向こうの夜のほととぎす 斎藤 嫩子
- 12 始祖鳥の孵化を促す溽暑かな 坂本 眞紅
- 21 夏帽子ふわっと海を連れてくる 信藤 詔子
- 22 かなかなや体の中に飼ふ夕べ 近藤由香子

2 雲の峰ほほゑむだけの人とゐる 古川かず江

点眼の沁みわたりたる青葉潮 倉部 仁子

と・ころてんあなたの心がつかめない 黒田さち子

16 それがまあ尼さまのよう涼新た 江草 一美

9 しあわせは荷物のひとつ七変化 瀬戸優理子

田水湧く同胞はらからみんな多産系 横山いさを

23 ハモニカは夏の果てまで響きをり 島崎 寛永

12 蝌蚪の紐たどれば結婚相談所 鈴木きみえ

19 人影は魚影のごとく海霧の街 松王かをり

初盆で娘と孫並ぶ厨かな 石本 雪鬼

17 五つ葉のクローバーなんだか不安 小路 裕子

さみしさの真ん中聞き耳が正座する 井尾 良子

18 炎昼やここに暴るる胎児居り 宮原 青佳

蝦夷等の遺産に拍手白桔梗 宮下美紗子

1 八月を背負い続けている少年 亀松 澄江

6 ゆうずつを引っ張って来る捕虫網 平尾 知子

24 うしろだけ雨に濡れたる立葵 大河原倫子

8 炎天に人すこしづつ発酵す 荒川 弘子

団らんの消える黙食天の川 木南 琴

海沿ひの村こゑもなし墓洗ふ 伊奈 青人

牛冷す仏の漆磨くごと F よしと

ひまはりに似た子の頭なでてやろ 新出 朝子

20 雲の峰丹田意識して立てり 岡本 順子

3 柩からは見えぬ花野を通りたる 長野 君代

無骨なる男の供花のとりかぶと 齋藤 雅美

三畳の部屋に西日や史記五卷 齋藤 厚子

藍染ののれんを分けて藍浴衣 中田真知子

11 底紅に溜まる夕闇疫籠り 辻脇 系一

街中の五輪疾走秋暑し 中田 琢志

7 夕螢姉が知らない人とゐる 永野 照子

掃除機の蛇腹大暑の影を曳く 遠藤由紀子

真っ先に五臓六腑が秋に入る 原田 昌克

敗残の日はルピナスの炎えのぼる 五十嵐秀彦

友情の汗友情に涙秋暑し 石井 美髯

大吟醸の酒蔵奥の雛かな 東出 従子

黒百合と目があふそして目を逸らす 青山 醉鳴

仄暗き水の上生く水馬 多田 琴美

廣野に立つ案山子一本起点ゼロ

旭 太郎

一語一語に深い思惟のある言葉で構成された作品。広々とした原野に立つ一本の案山子自体が頼りなき存在なのに、その立つところはゼロだという。起点すなわち基準や基礎になるところが危うい最近の世界情勢を憂う、高尚な作品として読ませてもらいた。

戦争を連れてきそうな青バナナ

石川美智子

戦争と青バナナという、意外な言葉の幹旋。戦争を連れてくるかも知れない、と青バナナを見て思う作者。ここにたくいまれな感性があり、直感の鋭さがある。私も何かわからない不安があるので、この作品がよく響いた。まさかがない事を祈るばかりである。

冬麗の真珠泣けるだけ泣いて

江草 一美

ひとそれぞれの苦悩は、計り知れない。万人に届く苦悩の慟哭は、いつどのような形で来るか想像もできない。その慟哭を、冬麗の真珠と詠んだ作者。運命に非力な人間は、泣けるだけ泣きながら明日に立ち向かうしかない。わたしもまた祈っています。

晩学や蛍袋に灯がともる

大西 寿子

近頃は各種の勉強会へのシニアの方々の参加が増えているようです。熱心に聴講されるだけでなく、日頃から勉強されている方も多いと思われまします。蛍袋の別名は釣鐘草で、花は電灯の傘の形に似ています。夏の夜に、ゆったりと調べものを楽しむ姿が思い浮かびました。

初句会句帳捲れば森の中

亀松 澄江

初句会に参加された際に、短冊に転記するためあらかじめ書き留めておいた句帳を開いたときの句と読みました。兼題が森に関係するもので俳句を作ったときに入った森を思い浮かべたとも、俳句の世界(森)に没入する感覚を詠んだともとれる不思議な句です。

流離とや尾根の彼方へ処暑の雲

桂井 俊子

秋の訪れとともに、風が強くなり雲の流れも速くなる。尾根を吹き上る風によつてできた雲は尾根を越えると千切れて風下へ流れていく。時の流れと人の別れを雲に託して詠んだ句と思えました。

望む死も得ず不治闘病に髪洗う

佐藤 和則

最愛の人が不治の病と闘っている。長い闘病生活に終止符を打つことができないものかと顔が訴えている。点滴は繋がりに、自ら三度三度食事をしている。髪も自然に伸びてくる。生きていることの証だ。髪を洗いさっぱりしても、心の中は霧がかかったままなのである。

夏ありますかカードで払へますか

島崎 寛永

キャッシュレス時代である今、財布に現金がなくてもカードで買える時代である。自分の欲望を満たすための切り札となっている。明日から三日間休みだ。この期間だけでも夏であればと思った。よし、百貨店に行こう。夏ください。一括払いでお願いします。

水を遣り継ぐ八月の隅々に

信藤 詔子

通常水を遣るとは、毎朝鉢植えに水を遣るといふことだろうが、遣り継ぐとあるので、後の世まで続けるといふ強い意志を示している。原子爆弾が投下された八月、被爆地では水を求めて人々が彷徨った。この平和な世の中であるからこそ、そのことは決して忘れてはならない。



7頁〜8頁

阿部 満子

ラ・フランス甘し革命歌は遠し

高垣美恵子

革命歌とは「インターナショナル」だろう。「インターナショナル」は十九世紀末にフランスで誕生、ソビエト・ロシア等世界に広まった。ラ・フランスはフランス原産。収穫後追熟させなければ甘くならない。不思議な取り合わせと思っただが遠くフランスで繋がっている。

棄てたのはレモン二つほどの恋

津坂 圭子

わっ、甘い。と、一瞬思った。しかしレモン二つほどの恋とは何か。若者の恋ではなく大人の恋だろう。大人になるほど回りが見えてくるから、恋を貫くのは難しい。作者は自分に言い聞かせているのだ。身と心、レモン二つほどを棄てただけなのだ。けして甘くない。

絵日記に戻る途中の赤とんぼ

西村 山憧

絵日記に描かれたとんぼは秋になって気が付いた。自分には次世代に命を繋ぐ指名があるのだと。絵日記を飛び出し、赤とんぼとなった。使命を果たし、そして絵日記に戻る途中で作者に出会ったのだ。そんな赤とんぼを優しく見守る作者。

9頁〜11頁

安田 中彦

アイヌ語の地の名川の名雪が降る

檜垣 桂子

ふだん失念している事実をふと思いつき起こさせてくれるのも俳句の面白さ。無数のアイヌ語の地名の中に生きていることを、作者は降る雪を見つつ再確認している。その脳裡を過るのは、一筋縄ではない。「開拓」以降の歴史を背景に、ここに自分が存在する不思議だろうか。

めしつぶがつかえておりぬ終戦日

平尾 知子

飯粒が喉につかえたのは、慌てて食べたからか、それとも老齢のせい。終戦日との取り合わせで、戦中戦後の食糧難を想起させる。日本軍兵士の死因の六割は餓死だったともいう。食物の豊かにある現代にあつて、作者は遠い悲惨な過去に思いを馳せている。

咳ける喉に俳句の切れっぱし

藤谷 和子

俳句の作り方にも二種類ある。一つの句を何度も何度も直す。もう一つはうまく作れない場合は即座に捨てて新しい句に取りかかるといふ。咳いたとたんにそれが喉にふっと現れたという諧謔味ある句。

## 第22回 中北海道現代俳句賞 作品募集

### 応募要領

- 1 応募作品 未発表20句(必ず題名をつける)※未発表の定義は「結社誌・同人誌・大会作品集などで活字化されていない作品」「ブログ又はSNS等Web上に発表されていない作品」、二重投句・過去の応募作品の再応募は不可
  - 2 募集期限 令和3年12月15日消印まで
  - 3 募集地域 石狩、空知、後志振興局管内在住者(会員以外の応募可)
  - 4 応募用紙 指定の用紙を使用 会員には会報92・93号に同封  
会員以外の方は顕賞係へ返信用封筒に〒・住所・氏名を記載し切手貼付のうえ指定の用紙を請求下さい(協会HPからダウンロードも可)
  - 5 応募方法 応募料三千円を定額小替為・現金書留にて指定用紙を同封
  - 6 顕彰 令和4年4月10日の中北海道現代俳句大会席上にて行う
  - 7 作品送付 〒061-2284 札幌市南区藤野4条5-19-6 菅井美奈子方  
中北海道現代俳句協会 組織活動部行
  - 8 選者 五十嵐秀彦・石川美智子・永野照子・松王かをり・横山いさを  
渡辺のり子・瀬戸優理子(新)の7氏
- 問合せ先 会長 五十嵐秀彦 011-852-7014 顕彰係 菅井美奈子 011-592-6426

# 北海道現代俳句協会会員等の近年の出版物一覧

| 著書名         | 作者名           | 出版年   | 出版社      |
|-------------|---------------|-------|----------|
| 影 絵         | 亀松澄江          | 2014年 | 草木舎俳句会   |
| 白 玉         | 檜垣桂子          | 2016年 | 舷燈俳句会    |
| 光 適々        | 新出朝子          |       | かでの俳句会   |
| 童 牛 舎       | 鈴木八駿郎         |       | 童 牛 舎    |
| 告 白         | 瀬戸優理子         | 2017年 | パレード     |
| 暖 色         | 鈴木牛後          |       | マルコボ・コム  |
| 根雪と記す       | 鈴木牛後          |       | マルコボ・コム  |
| 人 類         | 安田中彦          |       | 邑 書 林    |
| 俳句ひらく       | 現代俳句の筆跡       |       | 現代俳句協会   |
| もういいかい      | 浅井通江          | 2018年 | 三和印刷     |
| 雛 合         | 平川若菜          |       | 飯塚書店     |
| にれかめる       | 鈴木牛後          | 2019年 | 角川文化振興財団 |
| 寺田京子全句集     | 寺田京子          |       | 現代俳句協会   |
| 潜 伏 期       | 橋本喜夫          | 2020年 | 書肆アルス    |
| 如 雨 露       | 信藤詔子          |       | 文學の森     |
| 鶴 の 舞       | 齋藤厚子          |       | 現代俳句協会   |
| 枯向日葵        | 国兼よし子         |       | 短歌研究社    |
| 白 障 子       | 岡本順子          |       | 柏 艦 舎    |
| 連句・立春の巻     | おもしろ俳句絵本(一)   |       |          |
| 半角斎鴻風(梶 鴻風) |               | 2021年 | 石田製本株式会社 |
| 最果ての向日葵     | 俳人 藤谷和子に聞く    |       |          |
| 証言・昭和の俳句    | 松王かをり         |       | 中西出版     |
|             | 黒田杏子編 五十嵐秀彦ほか |       | コールサック社  |

## 第31回 中北海道現代俳句大会のご案内

- 日 時 令和4年4月10日(日) 午後1時から
- 場 所 かでの2・7 820号室 札幌市中央区北2条西7丁目1 TEL 011-204-5100
- 会 費 大会費:1,000円 当日受付にて申し受けます
- 講 演 松王かをり氏(予備校古文教師・現代俳句評論賞・中北海道現代俳句賞)
- 演 題 「未 定」
- 講 評 主要作家数氏
- 応 募 規 定 2句1組 1,000円 但し高校生以下は4句まで無料新作未発表作品に限る  
所定用紙または200字詰原稿用紙(協会HPからもDLできます)  
作品は出句料(定額小替為等)に同封可
- 送 付 先 〒063-0811 札幌市西区琴似1条1丁目2-38 琴似コート614号室  
金子真理子 TEL (011)644-5193
- 締 切 令和4年1月20日(木)必着
- 賞 品 大会賞他
- 懇 親 会 大会に引き続きガーデンパレス(中央区北1条西6丁目)にて午後4時半から  
会費 5,000円 当日受付にて申し受けます  
※懇親会出席の取消しは4月7日までとし、以降は会費を頂戴します  
※コロナ感染状況により変更になる場合があります。  
※なお当日は第22回中北海道現代俳句協会賞の懸賞も併せて行われます

# 礎

## 河草之介

略歴 昭和八年浦河町生 昭和二七年（昭和三五年）「緋衣」。昭和四〇年—平成四年「氷原帯」、昭和四四年まで編集に携わる。昭和五一年「広軌」入会。昭和五四年現代俳句協会会員。平成六年第一二回現代俳句協会新人賞受賞。句集『円周率』。

地震帯タンポポが土食いあさる  
縊死見上げたましい白い野犬たち  
祭り過ぎ蝶硬くなる重くなる  
家族とは何か何かと駅混みあう  
スケートの刑事が父として転ぶ

原田 昌克 抄出

### 〔青のフロント〕 佳句抜粋

八月は昭和ずっしり積み団子 小路裕子  
百日紅夢見る馬鹿がやはり好き 音羽紅子  
ぶくぶくとコーヒー香る終戦日 宮原青佳  
気づかれぬように向日葵けふ枯れぬ 島崎寛永  
衰うる地球に案山子深く刺す 安田中彦  
脈拍の細き秒針鱗雲 村上上海斗  
吊り橋のここ真ん中よ時鳥 桂井俊子

## 幹事会報告

### R3.9.16(木)かでの2・7休館の為紙上開催議題

- 1 俳句交流研究句会結果報告(組織活動部)
  - ・緊急事態宣言の為、紙上開催
  - ・9月末参加者に冊子発送予定
- 2 定例総会及び新年交礼会(事務局)
  - ・日時 令和4年2月5日(土)
  - ・会場 かでの2・7+ガーデンパレス
  - ・会費等の検討事項(状況により中止の可能性)
- 3 第22回中現俳句賞(組織活動部・顕彰係)
  - ・令和3年12月15日締切
  - ・応募規定の変更(詳細は92号会報に掲載)
  - ・選考委員会日時
  - ・係交代(菅井美奈子氏)
  - ・選考委員の追加(瀬戸優理子氏)
- 4 会報93号(広報部)
  - ・12月上旬発行、住所録同封
  - ・一句集講評依頼者
  - ・巻頭言他原稿依頼者検討中
- 5 令和4年度 第31回中現代俳句大会(事業部)
  - ・日時 令和4年4月10日(日)午後1時より
  - ・会場 かでの2・7+ガーデンパレス
  - ・講演 松王かをり氏、演題未定

紙上参加・回答者

五十嵐・石本・亀松・原田・林・鹿岡・遠藤  
高島・青山・瀬戸・中田・近藤・金子・高橋  
菅井・Fよしと以上16名

### R3.11.18(木)かでの2・7 530室議題

- 1 俳句研究交流句会 結果報告(組織活動部)
    - ・9月作品集郵送済、予算実行、反省点の報告
  - 2 令和4年度定例総会と新年交流会(事務局)
    - ・会場 かでの2・7+ガーデンパレス
    - ・総会行事予定の確認と予算等報告
    - ・案内状発送(一句集投句併記)・決算資料の作成
  - 3 令和4年度 中北海道現代俳句大会(事業部)
    - ・俳句大会関連の状況説明
    - ・選者辞退者の報告・会場参加費等予定報告
  - 4 中北海道現代俳句賞(組織活動部・顕彰係)
    - ・募集状況等の報告、選考委員会の開催日検討
    - ・選考委員辞退者の報告
  - 5 三役顧問選者の会(事務局)
    - ・本年紙上開催の報告・次回令和4年10月開催予定
  - 6 会報(広報部)
    - ・第93号12月初旬発行予定
    - ・住所録の同封と会費未納の連絡等同封
    - ・大会他各行事の本部報告用データ共有の件
  - 7 そのほか(事業部)
    - ・会費未納者への協会規則の説明など
    - ・令和4年現代俳句協会 総会・大会日程
  - 8 会員動向
    - ・3名の退会報告、会員数111名(会報93号掲載)
- 出席者 五十嵐・亀松・原田・鹿岡・遠藤・高島  
青山・瀬戸・中田・近藤・金子・菅井  
Fよしと以上13名

### 「青のフロント」句会のご案内

日時 偶数月第2土曜日13～16時  
場所 かでの2・7 当季雑詠3句  
問合せ先 (011)852-7014 五十嵐

### 「中北海道ゼロ句会」のご案内

不定期開催 問合せ先・村上  
ngh\_zero\_kukai@outlook.jp

## 第五八回現代俳句全国大会(関係分)

特別選者特選句 中村和弘選

万緑や地鳴りの如く牛の尿

遠藤由紀子

佳作入賞

風配るやうに並べて水羊羹

青山 酔鳴

### ◆事務局だより

早くも師走、新年はもうまもなくです。

本年も多くの行事が中止になる中、総会、中北海道現代俳句大会が開催できたことは本当に幸運なことでした。緊急事態宣言発令によって「俳句研究交流句会」や幹事会、三役顧問選者の会は書面による開催

### 編集後記

となりましたが、それぞれ有意義な結果を残せました。年度内の事業は中北海道現代俳句賞です。この会報が届く頃はまだ応募が可能です。ふるってご参加ください。外出が制限される中、今年も当協会会員執筆の本が多数発刊されました。近年の出版一覧を今号に載せましたが漏れ落ちがありましたらご一報下さい。

この一年に会員の国兼よし子さん、山沢壮彦さん、藤谷和子さん、浅井通江さんが逝去されました。協会退会後に他界された方もおいでかと思いますが、改めましてお悔やみを申し上げます。(Fよしと)

オンラインピックも各種選挙もばたばたと過ぎ、表面上コロナも落ち着きを見せている様子。油断は禁物ながら再開となった句会に安堵しています。小人閑居然とした暮らしから元の活動に戻り、鈍った勘を取り戻す日々ではありますが、ここで気を抜けばまた元の木阿弥となるかもしれないとどこか恐々としています。今号には

来年の行事の案内を掲載しました。予定通りみなさまとの懇親を深められることを願ってやみませんが、いま暫くは各種制限にご協力くださいませ。(青山酔鳴)

## 令和4年度 総会と新年交流会

### < 総会 >

- ・日時 令和4年2月5日(土)14時
- ・会場 かでる2・7 1030室

※返信葉書の記名をお忘れなく

### < 新年交流会 >

- ・会場 札幌ガーデンパレス
  - ・会費 4,500円(予定)
- ※開催・中止等詳細は別途往復葉書にてご案内。恒例の一人一句集の募集も兼ねます。必ず出欠ご返信ください。

### 令和4年度 北海道現代俳句大会

- ・日時 令和4年6月19日(土)
  - ・会場 トーヨーホテル(旭川)
- ※詳細は次号に掲載します。

## 会 員 動 向

(退 会)

会員数 111名  
(令和3年10月31日現在)

### 中北海道現代俳句協会 会費納入の御願い

当会年会費2千円の納入は振込です。手数料のご負担もお願いいたします。  
口座番号 02780-9-48961  
中北海道現代俳句協会

発行人 五十嵐 秀彦

発行所 中北海道現代俳句協会

〒064-0952 TEL 011-641-1007  
札幌市中央区宮の森2条8丁目1-18  
ふじもりよしと方

編集人 青山 酔鳴

〒061-1354 TEL 090-3398-3457  
恵庭市島松旭町4丁目9-1